

補助資料⑥

令和5年度 競技規則 最新の傾向から



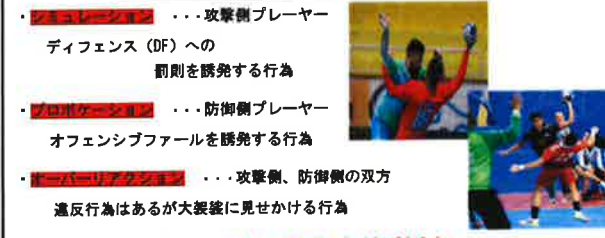
※ 本研修内で提示する写真、映像について、特定のレフェリー、プレーヤー、チームに対しての指導ではありません。あくまで「研修」として提示していることをご理解くださいますようお願い申し上げます。

1

シミュレーション・プロボケーション・オーバーリアクション

- ・ **シミュレーション** ... 攻撃側プレーヤー
ディフェンス (DF) への
罰則を誘発する行為
- ・ **プロボケーション** ... 防御側プレーヤー
オフenseイブファールを誘発する行為
- ・ **オーバーリアクション** ... 攻撃側、防御側の双方
違反行為はあるが大袈裟に見せかける行為

正しく見極め、ハンドボールの**イメージを守らなければならない!**



2


シミュレーション

⇨ 攻撃側プレーヤー

違反があったかのように見せかけ、罰則を誘発する**シミュレーション**に対し、毅然と対処する必要がある。
レフェリーが明らかだと判断したならば罰則を適用することも可能。

全ての人に伝わるBLで、インフォメーションを行う。

※ 本研修内で活用する映像は、研修の一つとして提示しています。



3


プロボケーション

⇨ 防御側プレーヤー

オフenseイブファールを誘発する、このような**プロボケーション**を決して許してはならない。

明らかな行為に対してはレフェリーは毅然としてスポーツマンシップに反する行為に直接の2分間退場を判定するべきである。

※ 本研修内で活用する映像は、研修の一つとして提示しています。



4


オーバーリアクション

⇨ 攻撃側・防御側双方

軽微な接触はあるが、あたかも大きな違反行為があったかのような**オーバーリアクション**は許してはならない。

会場全体に伝わるようなボディランゲージを使いインフォメーションが必要である。

※ 本研修内で活用する映像は、研修の一つとして提示しています。



5

PVゾーンなどユニフォームを掴むプレー



6

OFが掴むケース

ハンドボールをイメージを守るためにも、CR・GRで協働して管理する

7

OFがユニフォームを掴むケース

※ 本研修内で活用する映像は、研修の一つとして提示しています。

8

パッシブプレー（確認）

2022年の競技規則変更後
予告合図後最大6回のパス⇒予告合図後**最大4回**のパス

レフェリーはプレーヤーがボールを明らかに所持している時に予告合図を示す必要がある。

カウントを間違えることはあってはならない。

9

予告合図後、最大4回のパス

プレーヤーが明らかにボールを保持しているタイミングで予告合図を出す。

またカウントを間違えることは絶対にあってはならない。

※ 本研修内で活用する映像は、研修の一つとして提示しています。

10

スローオフエリア（確認）

ゴールエリアからスローオフエリアまでのゾーンを3つに分類する

レッドエリア
スローオフエリアの内側

オレンジエリア
スローオフエリアから3mの範囲内

イエローエリア
スローオフエリアから3mの範囲外

11

2023/07/01 IHF
スローオフエリアに関わる解釈の追加

- 1 ゴールエリアからスローオフエリアに向かうゾーンについて、**3つのゾーン**に分ける解釈を示した。
- 2 また、得点されたチームがスローオフエリアに向かってパスしたボールと、掃障するプレーヤーが接触したり、スローの実施を遅らせたりした場合、**掃障するプレーヤーの位置や動きが罰則を適用するかどうかの判断基準**となることを示した。

12

2023/07/01 IHF
スローオフエリアに関する解釈の追加

※掃陣するプレーヤーが自分のゴールに向かって、エリアの中を走っている状況で、ゴールキーパーは、スローオフエリアの中にいる味方にパスをする場面。



13

2023/07/01 IHF
スローオフエリアに関する解釈の追加

掃陣するプレーヤーを 2分間の退場とする。



① レッド エリア ② オレンジ エリア

14

レッド エリア・オレンジエリア



DFは、いかなる形であれ（ボールに当たるか当たらないかに関わらず）スローオフの実施を妨害しない責任がある。
もしも、DFがボールに当たったり、スローの実施を妨害したりした場合、即座の2分間退場とする。

15

競技が中断している際に、DFを積極的に妨害することは決して許されない。

↓

つまり、DFがスローオフを実施しようとするプレーヤーを妨害（スローオフエリアへ移動するプレーヤーやスローの実施のためにボールを受け取ろうとしているプレーヤーをブロックするなどして遅らせることも含む）した場合、レフェリーは2分間退場を判定する。

16

2023/07/01 IHF
スローオフエリアに関する解釈の追加

掃陣するプレーヤーを 2分間の退場とする。



① レッド エリア ② オレンジ エリア

17

2023/07/01 IHF
スローオフエリアに関する解釈の追加

掃陣するプレーヤーに必ずしも罰則が適用されるわけではない。




③ イエロー エリア

18

IHF

イエローエリア



DFが直接自陣ゴールの方へと向かって走っている際、**積極的でなくむしろボールを回避しながらの掃障が明らかな状況**において、このエリアの中で背中などにボールが当たったとしても、**罰則は適用されない**。DFが積極的な妨害をした場合（例えば、わざとボールを意図的に止める）に限り、**罰則を適用する**。

19

IHF

2023/07/01 IHF

スローオフエリアに関わる解釈の追加

③ イエロー エリア



掃障するプレーヤーに **罰則は適用しない**。

20

IHF

2023/07/01 IHF

スローオフエリアに関わる解釈の追加



掃障するプレーヤーが **ゾーンを横切って移動してボールと接触した場合**

21

IHF

掃障するプレーヤーがゾーンを横切って移動した場合

- 積極的にボールを避けようとせず、ボールと接触、あるいはスローオフの実施を妨害した

(この妨害がなければ、スローの実施が可能であったとレフェリーが判断できる)



どのゾーンエリアであっても掃障するプレーヤーは **2分間の退場**となる。



22

IHF

ゾーンを横切った移動



DFがゾーンに入っていく（横切っていく）場合、**ボールの軌道に走り込まない責任**がある。

どのゾーンであれ、ボールと接触しないよう積極的に避けようとしていない場合、**2分間退場**とする。

23

IHF

2023/07/01 IHF

スローオフエリアに関わる解釈の追加

- ゴールエリアからスローオフエリアに向かうゾーンについて、**3つのゾーンを意識する。**
- 掃障するプレーヤーの位置（3つのゾーン）や動き（横切っているかどうか）を観察する。
 - 自分のゴールに向かって掃障し、積極的に妨害していなければ、イエローエリアでの接触は、必ずしも罰則の適用とはならない。
 - 横切って掃障中に接触した場合は、3つのゾーンに関係なく**2分間の退場**とする。
- 積極的に妨害して接触した場合は、位置や動きに関係なく**2分間の退場**とする。

24

IHF

スローオフエリアに関わる解釈の追加
 <今回の解釈追加のねらい>

- ・スローオフは、スローオフエリアの中から、**必ず**実施される
- ・スローが完了するまで、DFがこのエリアには侵入できないことを明確に示している
- ・相手チームのスローオフの実施を**積極的に妨害することは、どの場所からであっても決して許されない行為**である
- ・DFとなるチームは、相手チームのゴールキーパーがスローオフエリアに向かってボールを投げる際の**ゾーンを横切ることのリスクを理解**する

25

IHF

2023/07/01 IHF
 スローオフエリアに関わる解釈の追加

スローオフエリアを設置することで、走りながらスローオフが実施できるようになり、よりスピーディーな展開、更なるハンドボールの魅力を引き出すことにつなげることを目指した。

しかし、この保障を「**相手チームを減らす**」ために**活用する行為**が見られるのも事実である。

26

IHF

2023/07/01 IHF
 スローオフエリアに関わる解釈の追加

スローを実施する側が、**相手を減らすことを目的に**

- ・得点を決めたプレーヤーがエリアの中で起き上がった直後に、GKが相手プレーヤーの背中などにボールを**わざとぶつける**
- ・ガッツポーズなど単に喜びを表現し構障するプレーヤーの手を**明らかに狙って**、ボールをぶつける
- ・GKが意図しなくても、放り投げたボールが、**たまたま自陣ゴールに向けて走り始めた相手プレーヤーの背中に当たる**

などの事象が見受けられ、これに関する明確な判断基準がないことから、DF側が意図的ではなかった事象（例えば、上記例の3つ目のように結果的にスローオフを妨害してしまった事象）においても、レフェリーは、即座の2分間退場を判定していた。

27

IHF

2023/07/01 IHF
 スローオフエリアに関わる解釈の追加

今回、3つのエリアに分けることで、

- ・DFへの**スローオフ実施の保障**
- ・DFに対するこのゾーンを使用した構障における**リスクと回避義務**（得点後の構障の際にボールの軌道に走り込まない責任がある）

に加えて、

- ・DF（特にGKからのスロー）の**スポーツマンシップの遵守**
- ・DFに対する相手の**安心、安全**へ考慮した行為の促し
- ・特に、イエローエリアはスローの実施位置から3m以上の距離があり、**DF、DF双方が使用できるエリアである**

といった、**DF側、DF側の双方が遵守すべきこと**を明確に示している。

28

IHF

2023/07/01 IHF
 スローオフエリアに関わる解釈の追加

特に、DF側が、

- **わざとボールをぶつける**
- スローを出す味方のプレーヤーがボールの先に誰もいないにもかかわらず、DFがエリアの中を通過して構障しているからと、**わざとボールを持つ手をDFに当てる**

というスポーツマンシップに反する行為を躊躇することなく行っているのは、**ハンドボールの発展は望めない**と言っても過言ではない。


IHFでも、今回、このような行為を行うDFに対して、次のガイドラインを示した。国内においても、レフェリー、チーム、コーチ、プレーヤーなど**ハンドボールに携わる全ての方へのメッセージ**として、掲載する。

29

IHF

2023/07/01 IHF
 スローオフエリアに関わる解釈の追加

IHF ガイドライン
 スローを行うプレーヤーが、相手にボールをぶつけるなどのスポーツマンシップに反する行為を行ったのが…




- 1) レフェリーがスローオフの笛を吹いた**後**
 - 再開方法：**相手チームのフリースロー**
 - スポーツマンシップに反する行為を行った**スロアー**を即座の2分間退場とする
- 2) レフェリーのスローオフの笛が吹かれる**前**
 - 再開方法：**スローオフ**
 - スポーツマンシップに反する行為を行った**スロアー**を即座の2分間退場とする

30

IFH

85年度の試合から



得点したプレーヤーは、**レッドエリアに侵入して、パスをカットした。**
レフェリーの**2分間退場**の判定は正しい。


※ 本研修内で活用する映像は、研修の一つとして提示しています。

31


IFH

85年度の試合から

①、②の状況で、得点したプレーヤーは掃陣する際、相手のリスタートを保障するために、ボールにあたることのないよう回避する義務がある。
即座に2分間退場としなければならない場面である。



①得点したプレーヤーは、**オレンジエリアを斜めに横断**しながら、パスコースの中に入り掃陣している。
GKからパスされたボールがあたった。




②得点したプレーヤーは、**オレンジエリアを直進**しながら、パスコースの中に入り掃陣している。
GKからパスされたボールがあたった。

※ 本研修内で活用する映像は、研修の一つとして提示しています。

32

IFH

85年度の試合から



- 得点后プレーヤーは、**オレンジエリアを斜めに横断**しながら、掃陣。
- GKからパスされたボールは**当たっていない。**

レフェリーは、2分間の退場を判定しているが、この状況での**罰則の適用は不要。**

→ GKからのボールはスローオフを行うプレーヤーに渡り、掃陣するプレーヤーが斜めに横断した影響はないため、プレーの継続が妥当。

※ 本研修内で活用する映像は、研修の一つとして提示しています。

33

IFH



ボールがGKの頭部直撃した際の罰則

シューターとGKが1対1の状況でシュートがGKの頭部へ直撃した場合、2分間の退場が適用される。

→ シューターへGKの頭部付近を安易に狙えないという心理的な歯止めになるとともに、GKの**安心・安全**を守るものでもある。

判断基準として、シュートを打つプレーヤーとGKとの間に防御側プレーヤーが誰もいない状況であること。



正しく見極めるためにはペア間での協働が不可欠である。
GKが頭部へ直撃したかのような演技をする**シュミレーション**があることも忘れてはならない。

34

IFH

GKの頭部へ直撃した例


- ① GKと1対1の状況にある。
- ② 放ったシュートがGKの頭部へ直撃する。
- ③ GKへの救護。
- ④ シューターへ2分間退場。
- ⑤ フリースローで再開する。

※ 本研修内で活用する映像は、研修の一つとして提示しています。

35

IFH

GKによるシュミレーションの例



GKは明らかに腕でシュートを止めている。

→ GKへ2分間退場。

このような**シュミレーション**は決して許してはならない。

※ 本研修内で活用する映像は、研修の一つとして提示しています。


36

IBF

最後に

レフェリーには、様々な手段を使いリーダーシップを発揮し、プレーヤーの安心・安全を保障し、ハンドボールのイメージを守り、公平なジャッジをすることが求められています。

そのために、最新の傾向や情報を共通理解し、レフェリングの向上を図り、ハンドボール界の更なる発展につなげていけたらと思います。



競技・審判本部